

レモンのグリーンな省力栽培体系マニュアル（露地）

月	旬	生育	定 期 防 除				施 肥 基 準 (10a当り施用量)		耕種的対応・注意点など
			病 害 虫	薬 剤 名	使用基準※	倍数			
							有機JAS	耕種	
3	上	開 花 前					有機N10号 80kg	粒状発酵鶏糞 270kg	●かいよう病の発病枝は散布前に除去する。 ●密植園では込み合った枝を剪定、縮伐により切除し、風通、受光環境の改善を図る。 (必要に応じて除草) ●ICボルドー66Dは、新芽への葉害を避けるため、発芽期までに散布する。 ●開花期～落弁期には、水洗いにより花びらをおとし、灰色かび病および訪花害虫の飛来を抑える。 ●圃場周辺の除草を行う。 ●ムッシュボルドーDFは、葉害軽減のためクレフノン（炭酸カルシウム水和剤）を加用する。 ●イオウフロアブルは葉害を生じる恐れがあるので、高温時の使用を避ける。 ●スパイカルプラスのバックは、直射日光を避け、葉の影に吊り下げる。 ●カイガラムシ類の被害部位を剪除するとともに、樹幹内部に光を入れるよう受光環境を改善する。 ●黒点病対策については、感染源となる枯れ枝を除去するとともに、強風雨前の散布を心がける。 ●圃場周辺の除草を行う。 ●圃場周辺の除草を行う。 ●夏秋梢にかいよう病が発生した場合は除去し続ける。 ●ムッシュボルドーDF1000倍＋クレフノン200倍は台風接近前に散布する。 ●圃場周辺の除草を行う。 ●緑果の収穫は農薬の使用基準（収穫前日数）に注意し、収穫サイズ以上で果汁が十分入っていることを確認してから収穫する。 ●10月下旬以降に夏秋梢を除去する。

※ 使用基準：収穫前日数/使用回数制限を示す。

◎青は有機JAS、赤は耕種的取組みを示す。

◎（ ）は定期防除以外の応急的な防除を指す。

◎農薬の使用基準を順守し、病虫害の発生、収穫計画に応じて適期に防除を行う。

◎安定生産のため、冬季の堆肥施用による土づくりを行い地力増進に努める（注：豚糞堆肥、鶏糞堆肥の過度の施用は控える）。

★農業の保管管理、生産工程管理のための記帳は必ず行いましょう（栽培日誌、防除日誌）★